



相互パートナー

No. 25

# HSK なんれん とかち

昭和48年1月13日

第三種郵便物認可

HSK通巻第312号

1998年3月10日発行

毎月10日発行(一部100円)

(会費・協定会費に含まれています)

編集 財団法人北海道難病連十勝支部

発行 北海道身体障害者団体

定期刊行物協会(HSK)

## もくじ

- なんとかニュース.....2
- 支部役員研修会報告.....4
- アルバイト募集.....8
- 募金箱集約報告.....8



# ≡≡≡ なんとか NEWS ニュース ≡≡≡

・・・ なんとかやります？ みんなでなんとかししょう！！ なんびょうれんとからび・・・

## 1 難病相談・集団無料検診

9月7日 — 足寄町民センター —

- ① 主催 財団法人 北海道難病連
- ② 支部からの参加者 — 江口・荒尾・福田・加藤（健）・小野関
- ③ 報告者 — 小野関

支部はお手伝いということで、江口さんは、会場案内、加藤さんは、車で患者さんをレントゲン撮影のため移送する仕事をしました。私、小野関と荒尾さんは、スタッフのためのお茶出し等の接待とコピーなど、福田さんは福祉機器展示を担当しました。

検診を受けに来られた方は22名でした。その中、特定疾患2名、1級2名、2級2名、3球1名の認定がありました。

## 2 第17回 患者・家族交流会

9月10日 — 池田町保健センター —

- ① 主催 池田保健所
- ② 支部からの参加者 — 江口（支部役員の立場では1名）
- ③ 報告者 — 江口

今回の講演は「橋本病について」ということで、橋本病の患者の皆さん40名を主に55名の方々が出席しました。講演は、くりばやし医院院長の栗林秀樹先生で、「病気の理解と療養生活」でした。

私は、「難病連活動紹介」ということで、北海道難病連及び十勝支部の活動についてお話ししました。それにしても、患者さんの多さには、びっくりしました。

## 3 JPC街頭署名行動

10月4日 — 藤丸前 —

- ① 主催 十勝支部
- ② 参加者 荒尾・福田・成田・加藤（健）・小野関
- ③ 報告者 小野関

午後1時から、いつもの藤丸前で行いました。参加人数が少なく、署名数があまりありませんでした。署名数91筆、募金は5739円でした。

ご協力、署名して下さいました皆さんにお礼を申し上げます。

## 4 第18回 患者・家族交流会

10月6日 — 浦幌町保健福祉センター —

- ① 主催 池田保健所
- ② 支部からの参加者 — 成田・山崎
- ③ 報告者 — 山崎

主な内容は、講演と講師を囲んでの懇談会でした。講師は、大江病院総婦長 新津雅子氏で、「心のリハビリとストレス解消法」と題して、日常の臨床から感じていることや考えさせられることなどを分かりやすく話されました。

夫が妻に対して依存度が強い場合、妻に先に亡くなれると、夫は鬱状態に陥りやすい。または、妻が長期入院した場合に、自分自身の生活が不自由になるため、妻に対して冷淡に接するようなこともある。ストレスと病気の関係は非常に微妙で、精神面でもプラス思考か、マイナス思考かで病気に対する抵抗力に影響する。やはり、プラス思考の生活をすることが望ましい。その他、病気についての日常の心構えや家族の協力の仕方について、様々な事例を交えたり、自身の生活の中から考えていることを話されました。この他に「オーマイヤ教育研究所」の自己分析の紹介がありました。

## 5 リサイクル・バザー

12月7日 — 総合福祉センター —

- ① 主催 帯広市社会福祉協議会 「ふれあい広場」の行事へ参加  
(「障害者の日」記念事業の一つとして毎年開催されている)
- ② 支部からの参加者 — 平井・荒尾・成田・山根・福田・山崎・竹内・小野関
- ③ 報告者 平井

バザーのために、皆さんから寄贈いただいた品を販売しました。結構、小物が売れました。何回もバザーに出しても人気の無い物は、寄贈してくれた人には申し訳無いのですが、廃棄処分になりました。やはり、商品価値のあるものが、買ってもらえるようですよ。お陰さまで、19310円の売上がありました。ご協力に感謝致します。

## 6 合同レクリエーション実施

10月12日 — シーサイド・パーク —

- ① 主催 なんれんとかち支部
- ② 参加者 23名 (ボランティア3名)
- ③ 報告 山崎

とても好天に恵まれて実施できました。予定どおり帯広市役所前を9時00分に出発しました。11時ころには「広尾シーサイド・パーク」に到着しました。皆んな童心に帰って、遊具に乗ったり、海獣ショーを見たりとても楽しい一時を過ごしました。予約した昼食も好評でした。帰路には忠類ナウマン温泉に入りました。とてもいい湯。みんな元気でした。

## 1997年度 役員研修会終了報告

1997年度の十勝地区役員研修会は2月21日・22日の両日、幕別町のホテル緑館で開催されました。十勝支部・音更支部合同で行われましたが、今年度は十勝支部が当番ということで、準備段階から本部と打ち合わせしながら企画しました。本部からは、伊藤事務局長と業務課の村山さんが来ました。参加者は総勢23名でしたが、健康保険法の改正などタイムリーな問題もあり、なかなか中身の濃い研修になりました。

以下はその概要をお知らせします。

〔講演1〕「健康保険法の抜本改正について」十勝勤医協本部組織部長 山本 鉄雄 氏  
はじめに「網走管内の雄武町出身で1951年生まれで、本職は放射線技師です。十勝勤医協には400名近くの難病患者さんがいらっしゃいます。私は難病患者の問題や「友の会」の活動に係わっている方が合っている様に思っています。」と自己紹介をされてから、主に勤医協の活動について、概要、次の内容を話されました。

1997年9月1日から、健康保険の本人負担分が増えました。10%から20%になりました。これは、改正とは言わずに「改悪」と言いたいと思っています。「友の会」とおしての患者の声を紹介します。①年寄りがいじめられている。これは戦争でいじめられて、また、医療でいじめられる。②今までは1020円だった医療費が3400円になった。それに、タクシー代も必要なので・・・③検査の費用も今まで2000円だったのが6000円かかった。検査も安心して受けられなくなった。

「北海道社会保障推進協議会」から出ている資料を使って、健康保険法改正の結果生じる患者負担の増加の問題や、特定疾患の認定打ち切りの問題等を説明されました。特に難治性肝炎の患者さん144人に対して「認定打ち切り」を通告し、4月からは医療費は本人が払うように」と言って来た問題を例に挙げて、新しく特定疾患を認定する一方で、症状がある程度安定してきている疾患などについては、認定を打ち切っていく方針が見える事などを説明されました。

この流れから、今後を読むと、来年の参議院選挙が終わったら、①健康保険は本人負担を3割に。②大病院の外来は一律5割負担に。③高額医療費は一部の例外を除いて廃止に④健保財政への国庫負担を廃止して、保険料を大幅にアップ。

国の予算を4500億円削減したい。との方針があり、難病対策費も13億円削減したい。同時に国立病院の統廃合が進められている。新しい機械を導入して、民間に移行する準備をしているとも言われている。

まとめとして、介護保険法の問題点。98年診療報酬改定の内容などについて、資料をもと、勤医協の活動を中心に説明されました。

以上 (文責 山崎)

〔講演2〕「これからの地域リハビリテーション」芽室町立病院リハビリ課

理学療法士 岡田 征志 氏

地域リハビリテーションのお話をさせていただきました。CDR（地域を中心としたリハビリのこと）について説明されました。

リハビリテーションとは、皆んなが誰でも、同じ機能で動けるように指導し、計画をたて、生活全般を見て、その地域に住んでいる人は、その地域で介護しようとの考え方のことです。

理学療法士の仕事として、家族への精神的な援助、家族へのリハビリ指導などの家庭訪問や日常生活用具の貸出しなど。その他 e t c . . . .

ケアマネージャーの育成も行っているが、全国ではこの先、約4万人が必要であるとのこと。また、これからは、行政が行っていた分野について、民間でもできるようになってくる見通しであること。（規制緩和により、保険会社が介護保険を扱ったり、訪問看護についても、民間委託という時代が来るか？） ※「ケアマネージャー」とは。いろいろなサービスを受けている人40名～50名に一人の割合で、サービスの内容などについて不公平にならないように、横のつながりをもって調整する人。介護保険の導入によりこの話が具体化して来ている。ケアマネジメントのキーパーソンとして動く人のこと。

これからのリハビリテーションの土台は地域であるとお話していただきました。

理学療法士の仕事としての視点

- ・リハビリが必要な人に対して、手をふれることができる人（家族）への指導。
- ・所謂「機能訓練」は病院とかで。
- ・「友の会活動」への関わり。
- ・近くに住んでいる方々への指導。
- ・一番最後に関わってくれる人への指導。
- ・地域の住民の方への指導（小さなことから、声がけ「元気かい？」、送迎のこと。）

（記録 文責 竹内）

〔講話1〕「難病対策の見直しについて」北海道難病連本部事務局長 伊藤 たてお 氏  
特定疾患治療研究事業による難病医療費の公費負担制度が、平成10年5月1日から変えられようとしています。

改正後の主な内容

① 道から特定疾患医療受給者証の交付を受けている次の患者は、従来どおり全額公費負担が継続されます。

A 難病のために、日常生活に著しい支障のある重症患者。

B スモン、クロイツフェルト、ヤコブ病、劇症肝炎、重症急性膵炎の患者。

② 上記①に該当する患者以外の方は、各医療保険又は老人保険の患者負担分の一部について、次の自己負担が必要になる。

A 入院患者の自己負担限度額

医療費の食事療養費を含めて、1医療機関につき、月額14,000円

B 入院以外（外来等）の患者の自己負担分限度額

薬剤の1部負担金を含めて、1医療機関につき、月額2,000円

（1日につき、1,000円を限度に、月2回までの支払いが必要です）

ただし、訪問看護、院外処方による調剤薬局での薬剤費については、一部負担は生じません。

③ 重症患者と、それ以外の患者の医療受給者証の取扱いについては、支払い基金、国保連と調整の上、通知する。

④ 継続申請手続き時期について

上記の改正予定にあることから、平成10年度の継続申請に係る受付事務については従前の2月から3月下旬に移行することとし、医療受給者証の発行は4月下旬を予定しています。

⑤ 北海道単独事業の取扱いについて

難治性肝炎などの道単独事業8疾患の取扱いについては、今回の国の改正を踏まえて見直し等を行う予定です。

A 下記の要領にて決定される。

用紙（桃色）	他 の 色
医療費無料	一部自己負担
重症患者	他の対象患者

※受給者証の色別による違い

重症患者認定基準
特定疾患：国38疾患・道8疾患

※一部負担とは

入院月額 14,000円

外来1日 1,000円

“ 月額 2,000円

（記録 文責 内藤）

〔講話2〕支部役員相談について

北海道難病連本部事務局長 伊藤 たてお 氏

役員相談研修において、難病連本部事務局長伊藤たてお氏は、今後、国の方針として難病相談員を市町村に置く考えがあること。専門家の医師や看護婦さん達の説明に加え、同じ病気を持つ患者（患者会）が、相談を受け、アドバイスをすることも、難病になったばかりの患者には、心強いことがあるとお話でした。

その時の注意点について、根気よく、言葉をはっきりと、相談者を否定しないよう、あまり自信のないことは、その場で答えず、専門医等に確認の上、後日に返事すること、その為にも相談票を作成しておき、バックアップ態勢がとれるようにしておくことが大切であるとのことでした。

また、相談に対しての返事の仕方の良くない例として、①紋きり型 ②一方通行 ③根ほりほり型 ④説教・説得型 など色々と例をあげながら説明がありました。「相談は相手の立場に立って受け入れるという姿勢が大切である。」という研修でした。

（記録 文責 加藤（健））



支部役員研修会（緑館にて）



## 〔福祉機器営業所よりお知らせ〕

—— 「ふれあい帯広」では、アルバイトを募集しています。 ——

正式名は（財）北海道難病連福祉機器事業帯広営業所「ふれあい帯広」です。

時 給 : 600 円 (交通費別途)

勤務時間 : 午前10時から午後5時まで 週 月曜日から金曜日まで

※ ①透析が必要な方は応談いたします。

②展示会、支部行事が土曜日・祝日に行われる場合はこの限りではありません

仕事の内容 : 帯広営業所勤務 (帯広市西5条南13丁目19-2)

- ・電話、来所対応、帳簿記載
- ・在庫管理
- ・十勝支部との調整
- ・配達業務 (必要に応じて)
- ・支部行事への協力 (必要に応じて)

採用の条件 : ・運転免許を持っている方 ・明るく活発な方  
・事務処理の経験のある方 ・荷物の搬出、搬入の可能な方  
・支部の役職に就いていない方・患者、家族の制限はありません

応募の方法 : 履歴書を（財）北海道難病連業務課まで送付して下さい。

〒064-8506 札幌市中央区南4条西10丁目

締切り 3月31日

応募された方には、追ってご連絡を差し上げます。

※ 履歴書に連絡先の電話番号を書いて下さい。

お問い合わせ : 電話 011-512-3233 財団法人北海道難病連事務局  
業務課 村山まで

## 〔十勝支部から募金箱集約の報告〕

募金箱を置かせて貰っている事業所のご協力により、日常的に募金活動が続けられています。2月6日に集約しましたので、結果を報告します。

### 1 協力を戴いている事業所名

茂古沼酒店 様 珠璣屋かせ 様 ダイイチ西8条店 様 ワインプラザカワイ 様  
モミの木 様 十勝正直村 様 池田町営レストラン十勝 様  
川西大空マーケット中央店 様 川西大空マーケット1丁目店 様

### 2 今回の合計募金額 17,525円

以上の通り報告します。有り難うございました。(担当者 会計 平井)





合同レクリエーション (広尾にて)



はげまあい、たけあ北海道難病連

# ふれあ、帯広

【北海道難病連十勝支部】

帯広市西5条南13丁目19-2

TEL (0155) 23-6602

FAX (0155) 23-7071

■オープン時間

AM10:00~PM6:00 (月~金)

※土・日・祝日はお休み。

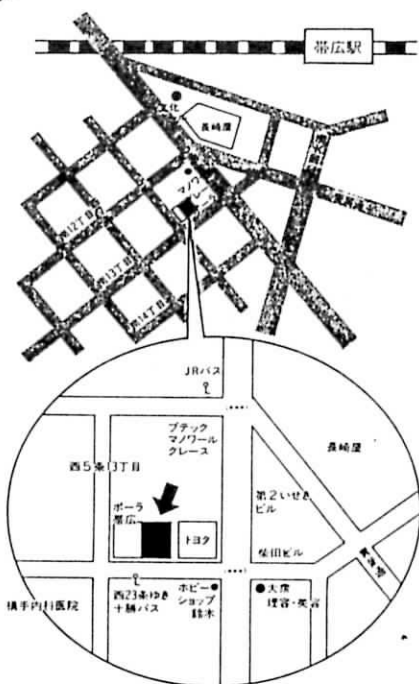
## 患者自身による患者さんのための 福祉機器ショールームです。

### 主な展示品

- 特殊ベット
- 電動ベット
- 床ずれ防止器
- 車椅子
- 歩行器
- リハビリ用品
- つえ各種
- ポータブルトイレ
- 入浴用品
- 視覚障害者用品
- その他各種

福祉制度の利用も可能です。

- 日常生活用具
  - 補装具
  - 厚生年金車椅子
- ご病気のことや、福祉制度のご相談もお待ちしています。



### 加盟団体

(個人参加難病患者の会)あすなろ会  
再生不良性貧血症者と家族の会  
全国筋無力症友の会北海道支部  
全国膠原病友の会北海道支部  
全国心臓病の子供を守る会北海道支部  
全国二分骨椎症児(者)を守る会北海道支部  
全国パーキンソン病友の会北海道支部  
脳道閉鎖症の子供を守る会北海道支部  
日本オストミー協会(人工肛門・膀胱)北海道  
日本てんかん協会(波の会)北海道支部  
日本リウマチ友の会北海道支部  
北海道 肝 炎 友 の 会  
北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会  
筋ジストロフィー部会  
北海道後縦帯骨化症友の会  
北海道 小 児 協 会  
北海道腎臓病患者連絡協議会  
北海道スモン友の会  
北海道腎臓小脳変性症友の会  
北海道側彎症児を守る会  
北海道低肺友の会  
北海道バーシャー病友の会  
北海道ヘモフィリア(血友病)友の会  
北海道ペーチェット病友の会  
未熟児精髄症から子供を守る会北海道支部

なんれんは(赤い羽根)

共同募金

の配分を受けています。

帯広市西5条南13丁目19-2



TEL

# (0155) 23-6602

HSK なんれんとかち NO. 25

編集人 財団法人北海道難病連十勝支部 江口美生男

昭和48年 1月13日第三種郵便物認可

「ふれあい帯広」 ☎ 0155-23-6602 FAX 23-7071

1998年3月10日発行 HSK通巻312号 (毎月1回10日発行)

帯広市西5条南13丁目19-2 月~金10時~18時、土日祝日は休み

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川久美子